

令和5(2023)年度 三重短期大学 一般選抜 2次募集
入学試験問題(小論文) 解答例

問題一 (90字以内)

貧困層の子どもたちは、そうでない子どもに比べて、食事の量、頻度、栄養素が少ないこと。そして、孤食、食事の不規則性など、食事の「質」についても家庭の社会経済状況による差があること。(89文字)

問題二 (100字以内)

食に困っている子どもは百万人の単位で存在するが、子ども食堂で救える子どもの数はわずかである。また、子ども食堂の多くは月に1回、2回といった頻度なので、毎日の「食」のニーズに対応できるわけではないから。(100字)

問題三 (400字以内)

「夏休みのあとには、痩せてくる子どもがいる」という問題提起を受け、私は子どもの食における格差をなくしていくべきだと考える。痩せて登校する理由のひとつとして、家で十分な食事がとれなかったことが推察される。食事は、栄養素さえあれば良い訳ではなく、食育も大切だ。しかし、その前に最低限の食事をとれない子どもがいる。栄養がなくては勉強にも取り組めない。そうすると、大人になってからの格差にもつながるのではないか。学校がある期間だけでも安心して栄養が摂れるように、給食を全小中学校で実施することが重要だ。

また、私の高校は給食がなく弁当持参である。高校生になって様々な格差がなくなる訳ではないだろうから、高校での給食実施についても議論が必要だと考える。

長期休暇中の食事、質の確保については、子ども食堂などの取り組みは有効であると思う。子どもの食の格差をなくす方法を社会が早急に考えていくべきだ。(391文字)